

## 湘南医療大学    ティーチング・ポートフォリオ

|     |                                      |
|-----|--------------------------------------|
| 大学名 | 湘南医療大学                               |
| 所属  | 大学院   保健医療学研究科<br>医療・マネジメントエグゼクティブ領域 |
| 氏名  | 菅河真紀子                                |
| 作成日 | 2026 年 4 月 25 日                      |

## 1, 教育の責任

近年、少子高齢化が進む中、医療を取り巻く環境は日々変化し、非常に厳しいものとなっている。未来の医療界を支える優秀なリーダーを育成するための領域責任者として、以下の責務が課せられている。

### \*教育者として

職種、地位などでの分け隔てなく、全ての学生が持つ無限の可能性を信じ、その能力を最大限引き出し育てていくこと。

### \*教師として

より理解しやすい、充実した講義が展開できるよう日々研鑽に励むこと。

### \*領域責任者として

世の中の動きを敏感に捉え、より新鮮な情報と洗練された技術を提供できるよう、理想的な教育体制を維持・管理していくこと。

## 2, 私の理念

### 1) 私の理念

私の大切にしている理念は「無償の愛」である。

教育は、医療や福祉と同じく、世の中に対する奉仕活動であり、その見返りは、当然学生に求められない。学生は、未来に向かってひたすら歩んでいるのであるから、教師の方を振り向くことなど決して期待してはいけない。溢れる愛情は、常に一方通行で、虚しさを覚えながらも、立派に巣立っていく頼もしい後姿を、何よりもの恩返しだと思い讃えなければならない。

世の中の花形といわれている職業には、「相手からどれだけ巧みに金銭的利益を得るか」の価値観で評価されるものもある。その価値観からすると、「無償」というのは、見返りがないのであるから一番惨めな結果であり、残念な評価に値する。しかし、教育者の価値観では、無償は決して惨めなものではなく、それは非常に崇高なものである。ときに心の中に温かい満足感と無限大の喜びを与える。「心の豊かさとは何か」と問われた時、一番に思い出すのが、この温もりである。心の内側でこの温もりは新しい愛情に変わり次の学生に注がれていく。無償の愛は、見返りこそないが次の愛情を生み出す力を持っている。そしてそれは、受けた側にも受け継がれ、心の温もりとして永遠に伝わっていくのだ。

### 2) 理念を持つに至った背景

私が無償の愛に触れたのは、学生の頃に行った留学先でのことである。ホストファミリーの父母より本当に溢れんばかりの愛情を注いでいただいた。別れる時に、何もお返

しができない自分が本当に情けなく、ただただ涙するばかりであったが、その時のやるせない感謝の気持ちが心の中で永遠の愛情に変わり、こうして今も生き続けているのだ。

ペイフォワードという言葉がある。誰かに恩を受けたら、その人に恩返しするのではなく、次の誰かにその恩返しをして、永遠に感謝の「和」をつなげていこうというものである。これは、一見簡単なように思えるが、なかなか難しい問題を孕んでいる。それは、いったい誰から始めるのかという問題である。一番初めの者は、恩を受けずして恩返しから始めなければいけないのだ。この言葉を初めて聞いた時、その矛盾に気づき、思わず苦笑した。しかし、次の瞬間、ハッと気が付いたのだ。「そうか、あのときのお父さん、お母さんがまさにその『初めの人』ではなかったか。」と。

その時から、自分の使命は、彼らの偉大な愛情を次の人へと大切に受け渡し、感謝の「和」をつなげていくことだと思うようになった。

### 3、教育の方法・戦略

教育の目的は、学生に理解させ、到達目標まで至らせることである。教える側が、たとえ学術的に優秀な人物であっても学生の到達度が低ければ優秀な教員とは言えない。逆に、一見、出来の悪い教員でも、それを反面教師として学生が捉え、自ら奮起して到達目標に達すれば、その教員は教員として優秀だといえよう。このように、教育の戦略は非常に奥が深く、経験を重ねなければ見えてこない人間の本能や性のようなものがからんでくるように思う。

最近、人に課題を提示されなければ自分から動けない学生が非常に増えた。また、指導を素直に受け入れられず、反抗する学生も良く見かける。人に言われて仕方なく学んでいるようでは、真の理解には到達できず、学ぶことの意義も失われる。

そういう意味でも教育において一番大切に難しいことは、「自ら学びたい気持ちにさせること」だといえよう。

これは自分にとっても長年の課題であったが、最近一つの答えを見つけた。

ある上司が、提出した報告書に「的確な文章ですね」と一言コメントしてきた。さほどたいしたことを書いているわけではないので不思議に思いながらも少しうれしい気分になりながらやり過ごした。次の時、また報告書を出すと、「素晴らしい！」と一言コメントが来た。どう考えても褒められるような内容ではないのだ。そして極めつけは期限ギリギリに出した報告書に「仕事、早いですね〜！」ときた。これはどう考えてもおかしい。とはいえ、「次はもっと早く出して褒められたい」という自分がそこいたのだ。いい年の大人をまんまと煽てて、仕事をさせている老獪な上司。その上司は、私の探し続けている答えをすでにどこかで見つけ出し、その戦略を使って部下を自ら働きたい気持ちにさせていたのである。

若いと、なかなか人を褒める余裕がない。ついつい欠点ばかりに目が行き「よくしてあげよう」と躍起になってしまう。しかし、こちらが「よくしてあげよう」と思わずとも煽てれば自分から「もっとよくなって褒めてもらおう」とする力が生まれるのである。とても単純でありきたりなことであるが、身をもって体験することによって今更ながら真の理解に至ることができた。

\* 学生一人一人を良く観察し、個々の優れた点を見つけ出し素直に褒める。

\* その学生が持つ特別な才能を伸ばせる環境を整え、発揮するチャンスを与える。

#### 4、教育活動の成果

2025 年度よりスタートしたこの領域の講義に対する受講者からの感想を紹介する。

- ・ zoom 可であることで、移動時間や業務調整の負担が軽減された。講師の方々はそれぞれの専門分野で活躍されている方でありながら、人柄も素晴らしく、非常に楽しく、貴重な講義を受けることができた。
- ・ 「福祉と安全」の科目は内容が非常にバラエティーに富んでおり、終始興味深く受講することができた。単一の分野にとどまらず、福祉・安全・医療・財務といった多様な視点から構成されていた点が大きな特徴だった。受講を通して多くの気づきがあり、最後まで飽きることなく学ぶことができた。
- ・ 一つの問題を多角的にとらえる視点を養うことができた点で非常に有意義だった。
- ・ 本講義では、医療制度や政策を個別の制度論としてとらえるのではなく、「そもそも医療とは何か」という根本的な問いから出発し、歴史的背景や社会構造の変遷と結びつけながら説明がなされた。医療は、時代や社会状況によってその役割や位置づけが変化してきたものであり、現在の医療政策も過去の制度設計や価値観の積み重ねの上に成り立っていることを、具体的な歴史の流れと共に理解することができた。
- ・ 断片的になりがちな医療政策の知識が体系的につながり、非常に理解しやすかった。
- ・ 医療を単なる「制度」や「コスト」の問題ではなく、社会全体の在り方や人々の価値観と密接に関わるものとしてとらえる視点は今後医療に関わる者にとって重要な示唆となった。
- ・ 医療政策を学ぶことは、制度を覚える事ではなく、医療の本質や社会との関係性を理解することだと再認識した。
- ・ 講師の方々の長年の経験や知見と国の制度を掛け合わせた講義は課題解決のヒントとなる大変よい授業であった。
- ・ 人的資源を単なる「人員」「コスト」として捉えるのではなく、組織戦略の中核を担う重要な要素として捉える視点を身に付けることができた。
- ・ 実際の組織や現場を想定しながら議論を行う場面も多く、理論と実践を往復しながら

学べたことは自身の業務や今後のマネジメントを考える上で大変有意義だった。

- ・受講者全体で対話を重ねながら進められたことで、理解が深められた点や安心して意見を述べるができる環境であった点も本講義の大きな魅力であった。
- ・人材育成や組織運営の基本となる理論から、それを現場で応用した具体的事例まで、バランスよく知識を深めることができ、医療マネジメントを修得するうえで非常に貴重な講義が多かった。

以上のように、各業界で活躍されている熟練の講師を数珠繋ぎし、オムニバス形式でおこなう、この新しい講義形態は、非常に好評で、確かな手ごたえが得られた。

## 5、今後の実施したい改善のための努力

### \* 最新の情報を最高の講師から学べる体制の維持

医療・マネジメントエグゼクティブ領域は、講師が命である。非常に多忙な先生方に対面講義の交渉を重ね、依頼を受けていただくことは容易なことではないが、今後多くの先生方にご協力をお願いしていきたい。また、自らの講義においても、その学年のニーズを考慮し、常に時代を先取りした斬新な講義内容となるよう心がけたい。

### \* AI を活用したスライドの刷新

医療関連の法律や制度は目まぐるしいスピードで改定される。また、医療データの数値も毎年、更新されるので、スライドの内容を最新のものに維持するために、非常に多くの時間を要してきた。しかし、近年、AI が進化し、それをうまく利用することによって、作業が非常に楽になり、時間が短縮されるようになった。今後は過去のスライドを含め、AI を駆使して刷新に努めたい。

## 6、目標

医療・マネジメントエグゼクティブ領域のミッションは、未来の医療界を担う柱を育成することである。個々の柱は弱くとも、お互いが強く支え合えば、どんな力にも屈しない頑強なものとなるだろう。一人一人の中にあるリーダーとしての素質を引き出し、縦と横をしっかりと結びつけることによって、熟練された知識と技の後継者たちは、医療界の強靱な核となるに違いない。その個々の柱を大切に結び付け、一つにすることが私に課せられた使命であると考えている。